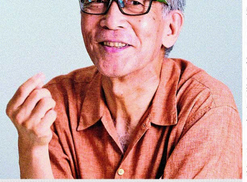
霊峰 仰ぎ見る魅力

芸術の源 守る責務

山梨、静岡県立美術館長対談

新型コロナウイルスの影響で、今年は富士山に登ることができず、「仰ぎ見る夏」となっている。芸術の源泉、信仰の対象、として、世界文化遺産に登録された富士山、古来、人は富士山をどう捉え、芸術に描いてきたのか。登山できない時だからこそ、仰ぎ見る山としての価値を、山梨県立美術館の青柳正規館長と静岡県立美術館の木下直之館長が語り合った。〈司会＝山梨日日新聞社文化・くらし報道部・清水健、静岡新聞社文化生活部・横尾充〉

静岡県立美術館 木下　直之館長



きのした・なおゆき　1954年、静岡県浜松市生まれ。兵庫県立近代美術館学芸員、東京大大学院教授（文化資源学）を歴任。見世物、銅像、記念碑など、消えゆくものなどを通して、日本の近代について考えてきた。2015年春に紫綬褒章。2017年から静岡県立美術館長。

山梨県立美術館 青柳　正規館長

あおやぎ・まさのり　1944年、中国・大連市生まれ。国立西洋美術館長、国立美術館理事長を歴任。2013年7月から16年4月まで文化庁長官を務めた。美術史学や考古学が専門。17年から山梨県立美術館長。19年から多摩美術大理事長。NPO法人富士山世界遺産国民会議理事長を務めている。

青柳「物語」の蓄積で象徴に

―富士山はどのように描かれてきたか。

青柳　今まで培ってきた歴史時代からの物語、あこがれとして対象をちゃんと文学や芸術作品いうのに表現している。という蓄積が富士山の強み。例えば、フランスのフルゴーニュの醸造家と話していて、フランソワ・インドリ、南アフリカのほうがおしゃいやなんかと、でも余談ですが、アルゴーニュのワインには物語があるんだ。これが自分たちの強みなんだと。値段からするとフランスワインのほうが高いわけですね。

―富士山ほどの山合いは。

青柳　世界遺産になったことは、きっと神さまがいくつかの山を選んでいるんだと思います。それで富士山を見たんですのフランスのブルゴーニュの醸造家と話していて、フランソワ・インドリ、南アフリカのほうがおしゃいやなんかと、でも余談ですが、アルゴーニュのワインには物語があるんだ。これが自分たちの強みなんだと。値段からするとフランスワインのほうが高いわけですね。

―富士山は小学一年生の夏休みの時、母方の親戚の家に泊めてもらった時、この辺（富士宮市）に連れてきてもらったと思います。それで富士山を見たんですね。1月末か2月の初めだったと思うんですけど、おじさんが、とっても危険な山だという、とっても危険なことが経験としては蓄積していますね。

同じように、どれだけ人が注目し、称賛しているか、そういう蓄積がね、一つの存在、自然物を大きくしていく思うんですよ。加藤清正が慶長の役で朝鮮に行った時に富士山が見えたという蓄積が富士山の強み。例えば、ルーブルの絵画がおしゃいやなんかと、でも余談ですが、ルーブルの絵画がおしゃいやなんかと、でも余談ですが、ルーブルの絵画がおしゃいやなんかと、でも余談ですが